

	類似疾病検査	疫学調査	臨床検査	送付用検査材料
海21 マエディ・ビスナ 〔届〕	① 流行性腺腫 ② 寄生虫性肺炎 ③ パスツレラ性肺炎 ④ 145 類鼻疽 ⑤ 腰麻痺	① 山羊とめん羊が感染するスロウウイルス感染症 ② 潜伏期は数ヵ月～8、9年で、発病後の経過も長い。 ③ 経口、経気道感染、乳汁感染 ④ 世界的に発生。オーストラリアとニュージーランドには発生がない。 ⑤ 2012年に日本でも発生	① ビスナは神経症状を主徴とする脳脊髄炎。歩行異常、唇、顔面の振戦、体重減少 ② マエディは慢性進行性肺炎。削瘦、咳、呼吸困難	① ウイルス分離材料には、白血球、肺、乳腺組織 ② 血清 ③ ホルマリン固定臓器
海22 流行性羊流産 〔届〕	① カンピロバクター症 ② 159 プルセラ病 ③ コクシエラ症 ④ 海6 リフトノバレー熱 ⑤ 海19 ナイロビ羊病	① めん羊、山羊が感染・発病 ② 欧州、北米、ニュージーランドなど世界各国で発生 ③ 初産の妊娠末期に多発 ④ 胎盤、子宮分泌液などに多量のクラミジアが含まれ、飼料や水を介して伝播し、めん羊や山羊に流行性の流産を起こす。	① 妊娠 30～120 日で感染 ② 感染後 50～90 日で胎盤炎を起こし、流産、虚弱子を分娩 ③ 母獣は発熱程度の症状	① 胎盤、子宮滲出液、流産後 24 時間以内の胎子 ② 流産時と3週間後のペア血清 ③ ホルマリン固定胎子臓器
海23 めん羊の疥癬 〔届〕	① 162 伝達性海綿状脳症(スクレイピー) ② 168 伝染性膿疱性皮膚炎 ③ 海20 羊痘	① 劣悪な飼養・衛生管理 ② 飼育群全体に発生 ③ 接触伝播 ④ 緩慢な発生経過	① 眼瞼周辺、耳、尾根部、四肢の皮膚に発赤、丘疹、水疱、膿疱、痂皮形成 ② 激しい搔痒感 ③ 脱毛 ④ 重症例では皮膚の象皮様化と一般症状の悪化	① 病変部皮膚、痂皮 ② アルコール固定材料
海24 山羊痘 〔届〕	① 168 伝染性膿疱性皮膚炎 ② 海2 口蹄疫	① 北アフリカ、中東、南アジアで流行。近年、南ヨーロッパでも発生 ② 直接および間接触染、気道感染、昆虫による機械的な伝播 ③ 若齢で重症、死亡率は不定で、ときに50%以上 ④ 山羊のほか、ウイルス株により、めん羊、猿、家兎、人にも感染	① 潜伏期は8～13日 ② 発熱、数日後に無毛部に辺縁充血した斑点形成、全身または鼠蹊、腋下および会陰部に0.5～1cmの丘疹。丘疹はときに出血を伴う。痂皮と癒痕形成 ③ 全身性障害、眼瞼腫脹、粘液性鼻漏、目やに、体表リンパ節の腫大 ④ 死亡例では全身の出血病変と潰瘍、リンパ節の腫大、肺、腎臓、肝臓に退色斑または結節形成口腔内潰瘍	① 新鮮な皮膚病変 ② ホルマリン固定病変 ③ ペア血清
海25 豚水疱疹 〔届〕	① 海2 口蹄疫 ② 海11 豚水疱病 ③ 海5 水疱性口炎	① 豚が感染・発病 ② 20世紀半ばに北米とアイスランドで発生。現在世界的にも発生がない。 ③ 口蹄疫と臨床的に区別できない。 ④ 感染源は汚染資材や厨芥	① 発熱 ② 口、鼻、蹄部に水疱形成 ③ 下痢、流産、泌乳減退、発育障害、希に、哺乳豚の死亡	① 水疱上皮 ② 水疱液